

# 肝付町の 教育・文化・スポーツの



教育長  
コラム  
Vol.21

## 退任のごあいさつ



教育行政の第一義的な責任者としての重責に押しつぶされそうになりながら、文部科学省から地方出向として教育長に就任した令和3年4月当時は、コロナ禍ということもあり、学級閉鎖や教育委員会が主催するスポーツや文化に関する行事の中止の判断が主な業務でしたが、そのような中においても、ここ肝付町において様々な人と出会い、関わらせていただいたことは私の人生において何事にも代えがたいものとなりました。

肝付町で過ごした3年間を単に一つの経験とすることなく、国において初等中等教育行政に活かせるよう精進してまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。

3年間、本当にありがとうございました。

上久保 秀樹

なお、上久保秀樹前教育長は令和6年4月1日付けで文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室において不登校支援を担当する室長補佐に就任予定です。

## 新任のごあいさつ

この度、令和5年12月議会において選任のご同意をいただき、4月1日付けで教育長を拝命いたしました。1959年生まれ、福島県浪江町出身、福島大学教育学部卒です。学生時代は、ボート部に所属し、全日本の大会や国体等にも出場しました。現在は、審判として各種大会に関わっています。

1981年に福島県の教諭採用、福島大学附属小学校教官、公立学校長、福島県教育庁教育事務所長を歴任し、学校現場や教育行政の場で教育全般に携わりました。2019年からは、東日本大震災・原発事故により全町避難子どもがゼロとなり、未だに居住できない地域を抱えた大熊町の教育長として、教育の復興・創生を果たしました。その間、経済産業省教育イノベーション小委員会の委員として、教育DX推進に向けた学習環境整備等の提言に関わりました。

この経験を活かし、肝付町の歴史・伝統・文化・自然を大切に、ふるさとに誇りを持ち、社会全体のウェルビーイングに貢献できる子どもを育てる、誰一人取り残さない「肝付ならではの教育」の創造に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



木村 政文